

登録コード	E8064400	開講年度	2026					
授業科目	卒業研究					担当教員	藤原 崇雅	
英文授業名	Graduation Study					副担当		
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	4年生	
講義室	教育研究室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】		
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					校正記号といった誤植修正の方法を知り、それを用いて論文を修正することで、公共に情報を公開する際に必要な使命感を身につける。また、研究として不正と判断される基準や実例を知り、自身の論文が該当していないかを確認することで、研究倫理を身につける。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					研究の方法論とその歴史の変遷、研究で援用する資料の調査方法、学術的な文章の文体について知り、それらを用いて論文を執筆する。また、それらを踏まえて口頭発表の形式で聴衆に伝える。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	・研究の方法論とその歴史の変遷を知り、それを用いて論文を執筆する。 ・研究で援用する資料の調査方法を知り、それを用いて論文を執筆する。 ・学術的な文章の文体について知り、それを用いて論文を執筆する。 ・自身の思考する内容を論文だけでなく、口頭発表の形式で聴衆に伝える。 ・校正記号といった誤植修正の方法を知り、それを用いて論文を修正する。 ・研究として不正と判断される基準や実例を知り、自身の論文が該当していないかを確認する。							
(5)授業計画	4月（方法論の学習） 教員の指定した作品を対象に研究の方法論を学ぶ。（対象作品の選定）卒業研究の対象とする作品の選択し本文校訂と先行研究の調査を行う。 5月（研究内容の報告）作品を対象として研究報告を行う。 11月から12月（草稿の作成）卒業論文の草稿を作成し提出する。 12月から1月（ピアレビュー）学生同士で論考を読み合いレビューする。 1月（草稿の修正）指導に従って草稿を修正および校正する。 1月末（完成稿の提出）研究室の規格にしたがった形式で完成稿を提出する。 2月（卒論内容の報告）卒論発表会を行い、修正一覧を作成する。授業アンケート 大学の制度利用により担当者が不在になる場合がある。その間は指導を行えないので、注意すること。							
(6)成績評価の方法	作成された卒業論文や卒業研究発表会での発表および質疑の内容に対して、以下の項目を参照しつつ成績を評価する。 1．授業の達成目標1の「校正記号といった誤植修正の方法を知り、それを用いて論文を修正することで、公共に情報を公開する際に必要な使命感を身につける。また、研究として不正と判断される基準や実例を知り、自身の論文が該当していないかを確認することで、研究倫理を身につける」ことに関する達成度を測るため、卒業論文について「指定された形式を守って論文を作成できている」かどうかを評価する：10点 2．授業の達成目標1の「校正記号といった誤植修正の方法を知り、それを用いて論文を修正することで、公共に情報を公開する際に必要な使命感を身につける。また、研究として不正と判断される基準や実例を知り、自身の論文が該当していないかを確認することで、研究倫理を身につける」ことに関する達成度を測るため、卒業論文について「自他の意見を区別したうえで論文として適切な文体で文章を作成できている」かどうかを評価する：10点 3．授業の達成目標2の「研究の方法論とその歴史の変遷、研究で援用する資料の調査方法、学術的な文章の文体について知り、それらを用いて論文を執筆する。また、それらを踏まえて口頭発表の形式で聴衆に伝える」ことに関する達成度を測るため、卒業論文について「同時代言説を十分に調査したうえでそれを効果的に論文で引用できている」かどうかを評価する：10点 4．授業の達成目標2の「研究の方法論とその歴史の変遷、研究で援用する資料の調査方法、学術的な文章の文体について知り、それらを用いて論文を執筆する。また、それらを踏まえて口頭発表の形式で聴衆に伝える」ことに関する達成度を測るため、卒業論文について「作品を自分なりに意味づけつつ論文において新しい解釈を提出できている」かどうかを評価する：10点 5．授業の達成目標2の「研究の方法論とその歴史の変遷、研究で援用する資料の調査方法、学術的な文章の文体について知り、それらを用いて論文を執筆する。また、それらを踏まえて口頭発表の形式で聴衆に伝える」ことに関する達成度を測るため、卒業論文について「日本近現代文学研究における理論的・方法的背景を踏まえて論文を作成できている」かどうかを評価する：10点 6．授業の達成目標2の「研究の方法論とその歴史の変遷、研究で援用する資料の調査方法、学術的な文章の文体について知り、それらを用いて論文を執筆する。また、それらを踏まえて口頭発表の形式で聴衆に伝える」ことに関する達成度を測るため、卒業論文について「同時代評や先行論を網羅的に調査しそれを研究史としてまとめつつ記載できている」かどうかを評価する：10点 7．授業の達成目標2の「研究の方法論とその歴史の変遷、研究で援用する資料の調査方法、学術的な文章の文体について知り、それらを用いて論文を執筆する。また、それらを踏まえて口頭発表の形式で聴衆に伝える」ことに関する達成度を測るため、卒業論文について「作家の経歴やその作品系列のついて丹念に調査しそれを記載できている」かどうかを評価する：10点 8．授業の達成目標2の「研究の方法論とその歴史の変遷、研究で援用する資料の調査方法、学術的な文							

(6)成績評価の方法	章の文体について知り、それらを用いて論文を執筆する。また、それらを踏まえて口頭発表の形式で聴衆に伝える」ことに関する達成度を測るため、卒業論文について「草稿・初出・再録・全集などの異動を比較検討したうえで論述に必要な本文校訂ができている」かどうかを評価する：10点 9．授業の達成目標2の「研究の方法論とその歴史の変遷、研究で援用する資料の調査方法、学術的な文章の文体について知り、それらを用いて論文を執筆する。また、それらを踏まえて口頭発表の形式で聴衆に伝える」ことに関する達成度を測るため、卒業論文について「各章が内容的に関連性を有しており全体を通じ論旨が一貫した論文を作成できている」かどうかを評価する：10点 10．授業の達成目標2の「研究の方法論とその歴史の変遷、研究で援用する資料の調査方法、学術的な文章の文体について知り、それらを用いて論文を執筆する。また、それらを踏まえて口頭発表の形式で聴衆に伝える」ことに関する達成度を測るため、卒業論文について「論文の内容についてよく理解できるタイトルおよびサブタイトルを付すことができている」かどうかを評価する：10点
(7)成績評価の基準	秀：成績評価の方法に示された項目を9つ以上達成できている。 優：成績評価の方法に示された項目を8つ達成できている。 良：成績評価の方法に示された項目を7つ達成できている。 可：成績評価の方法に示された項目を6つ達成できている。 不可：成績評価の方法に示された項目の達成数が5つ以下である。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。
(8)事前事後学習の内容	事前学習：定められた研究テーマに即して計画的な研究を進め、その内容を論文として纏める。 事後学習：討論での意見を踏まえて内容の修正や改稿をおこない、研究内容を充実させる。 この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。
(9)履修上の注意	受講学生と連絡調整の上、指導日時を決定していく。そのため日程調整には余裕をもって臨むこと。また、報告資料と実際の論文原稿とは質を異にするので留意すること。 本文12,001字(A4 11枚)以上を字数および枚数下限とする。 授業中は、受動的に授業を受講するのではなく、個人追究やグループワークなどの言語活動に主体的に参加すること。また、授業前後に必要な学習を相当時間数行うこと。 本授業は出席しているだけでは単位は認定されない。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	原則的に授業時に直接おこなうことが望ましいが、個人的な相談・質問がある場合はメールにて受け付ける。また、オフィスアワーを利用してもよい。対応可能な場合は、その他の時間でも可。 【藤原】研究室：中校舎4F 407 内線番号：4077 アドレス： fujiwara_takamasa@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	授業内で適宜指示する。
【参考文献】	酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』第2版、共立出版、2017 酒井聡樹『これから学会発表する若者のために』第2版、共立出版、2018 斎藤理生ほか編『卒業論文マニュアル』ひつじ書房、2022 上記に加え、授業内で適宜指示する。